

私の価値観

(原文は英語)

ウデオビ・オピオマ・ジェニファー (23 歳)

ナイジェリア・ラゴス州

ラゴス大学化学石油工学部

私は複数の価値観によって形作られていますが、最も大切にし、私の中に深く根差している価値観は、勇気、忍耐、そして誠実さです。私が覚えている限り、これらの価値観は私の充実した影響力のある生き方の道標となってきました。

私の母について触れることなくこの作文を書くことは考えられませんでした。母は私の精神的支えです。信心深い人で、長年にわたり虐待を伴う結婚生活に耐えていました。しかし、たった一人で、かつ教員の給料のみで4人の子どもを育て上げるという負担から、一度も逃げることのなかった女性です。これは勇気と忍耐を必要とすることであり、これらの素晴らしい価値観は私の礎となっています。母は「ただ自分がすべきことをし、それがうまくいかば神を信じて委ねなさい」と私に教えてくれました。この教えは、新しい人生の門出という恐怖や怪物のような父との生活という恐怖、そして現在では、神に与えられた使命を自分が全うすることができるかという恐怖など、長年にわたって困難や恐怖を乗り越える時に私に力を貸してくれました。インスピレーションを与えてくれる人の存在には、どうしてもない境遇を超えて私たちを向上させてくれる力があります。そして、私にとっての母がそうであるように、全ての人にこのような存在が必要だと思います。女性尊重主義の支持者として、自分の持つ基礎を活用し、若い女性や虐待にあっている女性たちが忍耐と勇気を持てるよう支援したいと思います。なぜなら、充足感を得て、本当の自分らしく生きるためには勇気と忍耐が必要だからです。

私の母は、いつも私たち子ども全員に誠実さを教え込もうとしました。しかし、ナイジェリアのような腐敗と無能によって常に打ちのめされるような国に生きていくと、人はその渦に引き寄せられてしまうのです。私が誠実であり続けることができている理由は、人とは違う自分での必要性を常に感じていたからであり、私が望む変化を体現したいと思っていたからです。数年前に同級生と交わした会話を今でも覚えています。彼女は彼女の両親が子どもを売買する仕事をしていると私に自慢したのです。そうです、自慢してきたのです！ どうか子どもを売買は「もうかる仕事」だったらいいのです。この不快な会話の後に少し調べてみたところ、ナイジェリアでは私が生まれる前から児童の人身売買が行われてきたこと、そして年々状況が悪化していることを知りました。若い女の子たちは誘拐され、偽の児童養護施設や民間病院に隠されます。彼女たちはそこで性的虐待を受けて強制的に妊

振させられ、赤ん坊はどのような人間であろうと関係なくお金さえ用意できればその人に売られてしまうのです。また、当然ながら児童福祉がナイジェリア政府にとって最も優先度の低い問題だということも調査によって分かりました。その時、私はこの国で腐敗することのない変化の力となることを自分に誓いました。それ以降、さまざまなソーシャルメディアを活用して、児童の人身売買に対する認識を高めようとしてきました。しかし、私にはさらに大きな計画があります。私は現在、ラゴス大学で石油・ガス工学を専攻しています。私の計画は、石油産業に参入して富と人脈を手に入れ、ナイジェリア中の恵まれない子どもたちのためにさまざまな施設を作るプロジェクトを立ち上げることです。これらの施設は、恵まれない子どもたちの更生・発育・発達のための安全な避難場所を提供することに焦点を絞ったものになります。長期的に見れば、この計画は児童の人身売買だけでなく、それ以上の問題に取り組むことになるでしょう。なぜなら、ナイジェリアをより良い国に変えられる唯一の希望は、今の若い世代と次世代の人々だからです。

「人のため、世のために役立つことをなすことが、人間として最高の行為である」これは日本人の慈善家であり企業家である稲盛和夫先生の格言です。使命とは神から与えられた才能を使って人を助けたいという衝動です。私を含む多くの人はその使命を知る幸運に恵まれています。ですが、自分の使命を知るだけでは不十分であり、それを果たすことが大事なのです。そして、使命を果たすためには基礎となる価値観を持つことが必要です。快適さよりも勇気を、楽なことよりも正しさを選ぶ必要があるのです。私にはこの国を変える力になるという使命があり、その使命に忠実であり続けることが私の価値観であると思います。